

## 「ピカピカのアンテナ」

こいで まよ

## 小出麻代



1983年大阪府生まれ。2009年京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程芸術専攻修了。KAVC主催「1floor2012『TTYTT, -to tell you the truth.-』」出品作家。  
www.mayokoide.net

これからの展覧会

[個展]6月6日(金)-7月20日(日)  
@the three konohana(大阪)

私には甥っ子がいる。ある日の保育園からの帰り道、彼は突然「水の音がする!」と叫びながら駆けていき、少し先のマンホールの上で立ち止まって、そこから聞こえてくる音に必死に耳を傾けていた。それから、「ここは、音がする。ここは、しない。」と、道中のマンホールの音の聞き比べをしながら帰った。彼は、秘密の答えを見つけたように嬉しそうに笑っていた。

自分の子供の頃を振り返ってみる時、いつも同じ風景を観察

していたことを思い出す。住んでいたマンションの3階からは、真下に駐車場と向こう側には大きなマンションが見えた。その間の場所は、木に覆われていて、そこに何があるのかは見えなかったけれど、天気の良い日には、ポーン、ポーンと何かが跳ねるような音と、時々、人々の歓声や落胆の音が聞こえた。

駐車場に入ったりする車の色や形、マンションの扉や窓が開いたり、閉まったりする様子。今考えると大した変化のないような景色に思えるけれど、当時は

飽きることもなく、毎日ピカピカと光ったアンテナを働かせ、観察していたのだと思う。音のする場所がテニスコートだと知ったのはもう少し大きくなってからだ。

いろんなものの正体を知りながら大人になってきたのだろうけど、正体そのものの存在さえも忘れていくことが多いのだと、甥っ子と過ごしていると教えられる。だから彼と過ごすとき、私は、もう一度アンテナを磨きながら、いろんなものの正体を一緒に探っている。